

コイ、ワタカの放流による沈水植物の繁茂抑制と 底質改善効果

森田 尚・根本守仁・岡村 貴司

◆背景・目的

漁場環境改善の手法として、コイやワタカを放流することによる、沈水植物の異常繁茂抑制と底質改善効果について評価する。

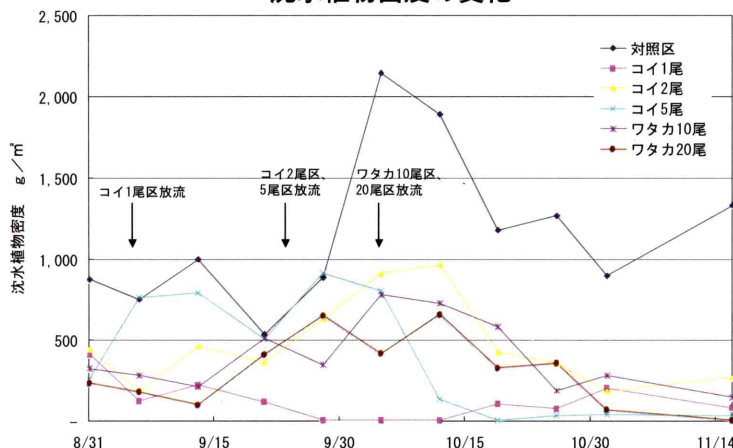
◆成果の内容・特徴

- ・2007年7～8月に大中干拓地の調整池(近江八幡市白王町)のコカナダモ繁茂水域で網生簀(1.5m×1.8m×1.8m) 6区画を設置した。
- ・9月6日にコイ1尾区(1.31kg)、9月28日にコイ2尾区(3.52kg)と5尾区(7.6kg)、10月13日にワタカ10尾区(1.75kg)と20尾区(3.42kg)へそれぞれ魚を放流した。残りの1区画は魚を放流しない対照区とした。
- ・サンプリングによる沈水植物密度は生簀ごとに変動が大きかったが、試験終了時の密度は対照区がピーク時の62.0%(1328 g/m²)であったのに対して、魚を放流した区ではそれぞれ0.0～27.8%(0～265 g/m²)と低かった。
- ・試験終了時の底質は、コイ放流区は砂質で、AVS(酸揮発硫化物)と IL(灼熱減量) が対照区よりも少なかったが、ワタカ放流区は泥質分が多く、AVS、IL共に対照区よりも多かった。

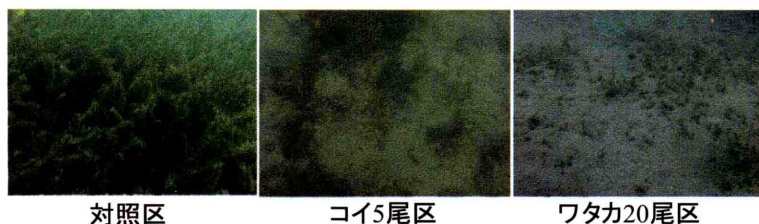
◆成果の活用・留意点

沈水植物の繁茂抑制効果が期待される放流密度を明らかにすると共に、底質改善のためには、ワタカとコイやニゴロブナなど湖底の餌を利用する魚種との組み合わせについて検討する必要がある。

沈水植物密度の変化



試験終了時(11月16日)の沈水植物繁茂状況



試験終了時の各生簀内底質(11月30日)

